

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 聖書学(旧約聖書学・新約聖書学)、歴史神学、組織神学(宗教哲学を含む)、実践神学の4構成(領域)において、研究演習担当教員への任用を促進し、学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる研究教育組織を構築する。	→研究演習担当者の追加任用(2011年度までに1名)。	C	B	B	A	A
2. 担当の見直しを行い、上記4領域の教員が、「キリスト教神学・伝道者コース」ならびに「キリスト教思想・文化コース」の双方を担当することを分かりやすく明示する。	→担当者を含めた履修モデルの作成と公開(WE B等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載]) (2012年度までに作成・公開)	B	B	B	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員採用・任用等における人事委員会(学部)および教授会において審議した結果(2013年度承認)、2014年度から「特殊研究演習」いわゆるゼミナールを担当する教員として、准教授以上とされていた資格を廃止した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度採用者を含め、新たに2名(准教授1名、助教1名)の専任教員が「特殊研究演習」を担当することとし、学生の多様な研究テーマに対応することができるようになった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本目標についてはすでに達成されたものと捉え、今後は最新の神学的テーマと学生のニーズを注視しながら、指導体制の適切性、対応方法を検討する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2015年度に予定するカリキュラム改編に際して、2014年度の早い段階で具体的な議論を展開した結果、キリスト教思想およびキリスト教文化に係る緒論的・総論的科目(「キリスト教思想概論Ⅰ」「キリスト教文化概論Ⅰ」)については、専門領域の別なくすべての専任教員の関わりのもと、オムニバス形式で担当していくことが決まっている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2015年度より実施するものであり、課題・改善点についてはまだ判断の時期にない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度より実施するものであり、伸長策・改善策についてはまだ議論の時期にない。	☆
		その他	☆
備考			☆